

## 第1回 周防大島町学校跡地施設利用検討委員会（旧油田小学校）会議録（要約版）

- 1 日 時 令和3年10月26日（火）9時30分から11時00分まで
- 2 場 所 油田農村環境改善センター 多目的ホール
- 3 出席状況 欠席者なし

### 4 資 料

- (1) 学校統合に伴う廃校舎等利活用募集要項
- (2) 廃校舎等利活用募集にかかるQ&A
- (3) 周防大島町学校跡地施設利用検討委員会設置要綱
- (4) 学校配置図及び平面図
- (5) 事業計画書等

### 5 内 容

- 会議については、応募者の管理運営に関するノウハウ等が含まれているため、非公開とすることに決定した。
- 応募者からの事業説明、質疑応答後に意見集約を行った。

### 6 質疑応答

#### (1) A者

（委員）利用者、ターゲットは町外か町内かという質疑。

（A者）町内の子どもは無料で遊んでいただく。海外、県外のサイクリストとかの宿泊。

（委員）100%地元の野菜を使うのかという質疑。

（A者）地域のをなるべく使いたい。

（委員）正社員数、集客方法についての質疑。

（A者）正社員は2人。ホームページ、今までのノウハウを活かしてやっていきたい。

（委員）大島でみんな、観光協会等もいろいろやってきているが人が減ってきている。A者がやることによってどれだけ上積みがあるのかという質疑。他の施設にも申込みをしているという話を聞いた。3箇所同時にやる場合どういうプランがあるのか。それとも3箇所のうち1箇所、2箇所をやるというプランなのかという質疑。

（A者）3箇所やる場合は3箇所とも農泊をやるが、例えば、安下庄に泊まって陸奥記念館に自転車で周りたくなった場合に、こっちでも泊まれる、荷物は車で配送できるようにしたい。リフォームをやっていて、国有のアパートとかを買って再生してアパートを経営している。こっちで集客できているのでその経験を活かして廃校を利用してやってみたい。

（委員）事業計画から3箇所同時いっぺんにできそうにないという意見。

（A者）すぐできますというのは難しいが、これから協力してもらって地域密着で、この計画でやっていこうと思う。

（委員）高齢化、人口減により地域の協力が難しいという意見。

（A者）みかん農家も人を雇っている状態。宿泊してもらって、みかん狩り体験ができますというふうにして、地域の農家と契約してできればと考えている。

(委員) 目の前に伊保田港があるが、愛媛県からの誘客についての質疑。

(A者) フェリーで来てもらうことも考えている。立地がいいのでそういう人たちも集客しようと思っている。

(委員) 町も農泊を含めた民泊を推進、実施している。コロナの後、受入家庭が戻ってくるかが問題。町の民泊の受け皿になるという考えはあるかという質疑。

(A者) そのつながりができれば受入れを考えたい。

(委員) 料理の具体的なビジョンについての質疑。

(A者) イノシシを鍋や料理にしたいという考えがある。総料理長をやっていた親戚がいるので話をして作ってあげたら。

(委員) 3つの施設を仮に全部取ったら、各施設に正社員を1人ずつ置くのかという質疑。

(A者) 雇って1人ずつ置く予定。

(委員) 会社として新しい試み。人材やノウハウについての質疑。

(A者) これからになる。

(委員) 新たな雇用は油田地区でという質疑。

(A者) 地元で、料理が好きな人とかを調べて、なるべく地元の人を雇用したい。

(委員) 秋のタイムスケジュールで温泉とあるが油田で温泉とはどういうことかという質疑。

(A者) 農泊するところにはシャワー室を設置する予定だが、温泉に入りたい人は温泉に行ってもらおう。送迎も一応考えているが、車で来る人もいると思う。

(事務局) 初期投資費用や運転資金の調達についての質疑。

(A者) 農山漁村振興交付金の内容について説明。

(事務局) 地域住民が希望した場合の使用、避難所としての使用についての質疑。

(A者) 使えるようにする。

## (2) B者

(委員) 正社員の数についての質疑。5Gということで無線機器を作るのか鉄塔を建てるのか、いずれにせよ通信関係で総務省とのやりとりが必要という質疑。

(B者) 社員は役員5名、社員10名近くいたが、コロナ禍で一旦店を閉めて、現状は役員5名、会計士とか事務方。5Gに関しては鉄塔を建てる。国の産業総合研究所と提携ができて、そこが作ったデバイスを使って、周防大島に張り巡らされている光ケーブルを10メガという大きな管に切り替えて、みなさんの家庭、仕事に利用できるという計画。総務省との目途は立っている。見積り段階、資金調達の目途も立っている。ただ、地域との連携が必要で、国・県・町の協力を得ながらこれから進めていく。提案書を提出するところ。

(委員) 地形が入り組んでいる。ちょっと入り組んだところにいくと電波が届かない。油田小学校に鉄塔を建てても片島側には電波は届かないのではという質疑。

(B者) 直進性が強い。家の中には入らないが、我々のデバイスをつけると家の中にも入るというところが今回画期的。1つのアンテナで3km四方を網羅できる。今後の展開としては周防大島に5~7箇所鉄塔を建てる計画を持っている。既にアンテナ業者が下見をして、油田小の裏側という高いところに建てる。鉄塔というと高いイメージだが、昔あった電話ボックスくらいの大きさのものを邪魔にならないところに置くだけ。

(委員) 油田小学校を選んだ理由についての質疑。

(B者) 片島を使わせてもらっているというのが1つの理由。見たときに程度がいい、ここから歩いて800m、この地の利はすごくいいと思った。それから橋から先端にある。先端でこういう派手なことをやって奥に人が集まれば、シャワー効果でどんどん散らばらすことができる。入口でやるのは簡単だが一番遠くに作ることで途中にも利益が落ちる。1も2もなくここがいいと思った。

(委員) 6つか7つ部屋があつて、もらった資料ではもう3社は入ってくれるのか。仮に6部屋すべて決まった場合、会社関係の人でどれくらいいるのかという質疑。

(B者) ワークেশョンビレッジを設けるのは福利厚生でもあり、全員がリモートで仕事をできるわけではないため、社内のある部署はそこへ行くが、事務で通う人は残る。そういう人たちの交流を想定して、働かないけど遊びに行くというのを想定すると、今の資料の会社は大会社ではないが、100、200人規模の会社。夏場だけでなく通年でそこに来てくれる交流人口は大変増えると考えている。働いている人の家族も来てグラウンドのキャンプで楽しんでいただける。多くの人に活用してもらえると想定できる。まだ確定的なことがないので、提出した会社だけだが、ニュービジネス協議会、アジア経営者連合会、JBCに所属している。これが確定した暁にはどんどんアピールしたい。固定ではなくタイムシェア、時間を譲り合うような利用も考えている。

(委員) 自治会の意見でコーヒーやちょっとした軽食を摂れるところがあればいいという話があるがそういう考えがあるかという質疑。

(B者) 今の計画書には落とし込んでいないが、全国にグランピングを作っているが、必ず誘客のポイントとして、ペットとおいしいコーヒーやお米、特産の物というのは人を引っ張るポイントになるので頭の中にはある。気軽に立ち寄れるようにしようと思う。

(委員) オフィスが6部屋あつて、そこの従業員、社員が寝泊まりするアパートや空き家を考えているかという質疑。

(B者) 空き家の話もいただいている、そこに定住して通うことになるのではないかと思う。簡易なベッドとかは2階に作るつもりだが、お風呂設備や家族で来た場合を考えると空き家を活用して、そこに定住して、定住人口にも貢献できるようにと思っている。

## 7 ヒアリング後の意見集約

- B者の方が現実的。実現性、継続性が大事。B者の事業は日本初になる。
- 地元にとってB者の方が良い。
- B者の継続性に不安があるが、A者よりB者の方が良い。
- A者の内容はどこでもやっている。B者は画期的で地元が活性化し、町にとっても良い。
- A者は集客できるかわからない。